



みんなの GIKAI

リニューアル
しました

おおくま議会だより第74号
2025年(令和7年)8月1日発行

特集

移住者の思い／傍聴者の声
パークゴルフ／クマSUNテラス紹介

写真：panier(パニエ)。関連記事→P10に掲載

移住者インタビュー

始まりの町にチャレンジ

東日本大震災、原子力災害から14年。復興が進む町には徐々に町民が帰ってきています。また移住者も増えてきて活気が出てきました。

新たに町民となった皆さんの、大熊町に移住されたきっかけや町への思いなどをインタビューしました。



ひろかわ まこと
広川 誠さん 神奈川県から移住

2021年に双葉町と浪江町にツアーカメラマンとして訪れたのが移住のきっかけです。現在は復興支援員という形でOIC（大熊インキュベーションセンター）にて企画や広報活動に携わっています。

実際に住んでみてアパートのすぐ横が帰還困難区域になっていることに驚きましたが、逆にこの地域だからこそできることを発信したいと思いSNSなどで日常を配信しています。

大熊町は一度全町民が避難したという辛い経験をした町です。その経験を強みに変え、「始まりの町」として再スタートできと思っています。

今後、災害や事故などが起きた際に、他の自治体の参考にもなれると考えています。私も写真や動画などの配信を通じて多くの人に大熊町を知ってもらえるよう努めていきたいと思っています。

さいとう こころ
齋藤 心さん 北海道から移住

学生時代（大学院生）にインターンシップで初めて大熊町を訪れました。新しい町ができていく過程の中で生活することは、なかなか経験できるものではなく、大熊町のこれからの移り変わりをこの先も見ていきたいと思い、ワクワクもしました。今後も町の復興に微力ではありますが、携わっていききたいと思い移住を決めました。

実際に住んでみて、飲食店やコンビニも近く、近隣のスーパーも車で数十分で買い物に行けるので、特に不便を感じることなく生活できています。

今後も町の復興が進み、これからの周辺環境がどう変わっていくのか楽しみにしながら日々暮らしています。

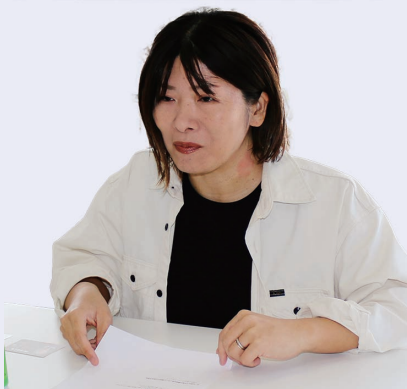


しみず はるな
清水 春菜さん 千葉県から移住

子ども（小学6年生、4年生）の教育環境が整っているので、学び舎ゆめの森への入学を決めました。ゆめの森の教育は先生との距離も近いので子どもたちは安心して学んでいます。

また子どもたちはバスケットボールや相馬野馬追にも興味があり私も子どもたちと一緒に楽しみたいと思っています。

今後は保護者としてもっと充実した教育環境づくりに協力していきたいと思っています。





キウイ栽培に励む原口さん[㊦]とサポートする若井さん[㊧]

はらぐち たくや
原口 拓也さん 大阪府から移住

学生時代に和歌山でミカンの収穫をお手伝いし、果樹に興味を持つようになりました。また福島県の現状も気になっていました。

町内でのイベントを通し、おおくまキウイ再生クラブと出会い、こちらに通うようになりました。

もりた ちひろ
森田 千裕さん 神奈川県から移住

娘（4歳）をのびのびした環境の中で育てたいとの思いで、学び舎ゆめの森へ入学を決めました。田畑や山林が近くにあり、娘も自然豊かな環境の中で学ぶことを喜んでいます。

私は現在、セラピストとして活動しています。震災前の町の様子や歴史に興味がありますので、いろいろと調べていきたいと思っています。

また町内のさまざまなイベントにも積極的に参加し、たくさんの人と交流をしていきたいと思っています。



あべ こうへい
阿部 滉平さん いわき市から移住

大学を卒業後、Uターンで福島に帰ってきました。一度いわき市で就職したのですが、震災時は高校生で避難することしかできなかったことなど、モヤモヤしたものが心に残っていました。そんな時に大熊町の求人を見つけたので、復興に携われると思い応募しました。ビジネスゲートウェイという会社で、大野駅前開発などを担当しています。

住んでみて思ったのは、里山のような感じが出身のいわき市小川町にすごく似ているなと感じ、なつかしいような感覚を持っています。

今後の町への期待は、住民が増えてほしいということですね。そのためには現地を見てもらうことが大切だと思うので、私たちが集客のための企画やイベントを作っていきたいと思っています。

そして昨年、地元の果樹農家から2.5ヘクタールの畑を借り受け、キウイ栽培に本格的に取り組むことになりました。手助けしてくれる人がたくさんおり後押ししてもらえてありがたいです。

初収穫は来年秋の予定です。おいしいキウイを町内外の人に届けたいです。また町には特産として全面的にPRしてくれる体制を取っていただければと思います。

わかい けい
若井 景さん 北海道から移住

昨年10月に札幌から移住しました。学生時代に果樹に携わった縁で原口さんと出会いました。町で復興支援員を募集していることを彼から知らされ応募しました。現在は復興支援員としてキウイづくりをサポートしています。

大学では農学の道に進み、麦やジャガイモについて学んできました。大熊町がもともと梨の産地でおいしいという評判は聞いていました。移住には梨をやりたいとの思いが後押しになりました。

住んでみて不便さは感じません。何年かかるかわからないけれど、自分たちのように農業をやりたいという方々が将来独立できるようになれば嬉しいですね。



傍聴してみて

議会をもっと身近に

年4回行われる定例議会。なかでも町執行部に復興の課題や新たな町づくりを提案する議員の一般質問が行われる日には、議場には傍聴者が詰めかけます。

傍聴者は議会をどのように見ているのでしょうか。感想や要望などを聞いてみました。

武内 智恵美さん
(下野上地区)

初めて12月の定例会の傍聴に参加しました。傍聴してみても質問している議員の皆さんの着眼点は良いと感じました。

一方で質問する議員の方はもう少し内容を簡潔に話していただけると分かりやすいのではないかと感じました。

また自分が参加した際の議会だよりは興味を持って見るので、傍聴者が増えれば私のように関心を持って議会だよりを見るのではないかと感じました。

今後も町の課題などに対して問題意識を高く持って議論を重ねていくてほしいです。



今野 盛男さん
(小入野地区)

議会傍聴には高齢者大学で行くことで誘われて行きました。

実際にはじめて一般質問の様子を見て、雰囲気を感じてきてよかったです。

また議員の方々はよく勉強されていることが理解できました。

これからも町の復興と町民支援のために、調査し勉強しながら頑張っていたきたいです。



石橋 英雄さん
(熊地区)

興味のある内容の質問があることを知り傍聴しました。議員の皆さんの質問内容は現状の課題をとらえた良い質問だと感じました。

傍聴者が意外に少ないことに驚きもっと増やす努力も必要ではないかと感じました。例えば、駅西交流施設で移動議会のような形でできれば、話題性もあり傍聴者も増えるのではないのでしょうか。

いろいろ大変だと思いますが、町復興のために頑張っていたくとも、今後もコミュニティ活動に積極的に参加してほしいと思います。



中島 幸広さん（下野上地区）
なかじま ゆきひろ



議会を傍聴した感想は、町長への質問について、ほとんど無難な回答や検討しきりで終わっているように感じました。よりよいまちづくりのために町民の代表として、もう少し突っ込んだ質問をしてもよいかなと思いました。

町長ばかりではなく、各担当課長が事業の趣旨や経緯など丁寧に説明するような形でもいいと思います。

議員の方には今後も町民のために頑張っていただき、住みよい町にしたいと思っています。

橘 弘美さん（熊地区）
たちばな ひろみ



議会活動に興味があり、どのようなことをしているのか、身近な議員さんの生の声を聞きたかったので傍聴しました。

実際に聞いてみると、議会だよりの紙面の情報では味わえないリアルな様子がとても面白かったです。もっと多くの人に議会の様子を見てもらいたいと思いました。

また議会と町民との交流の場を設けてほしいです。



澤原 善男さん（大川原地区）
さわはら よしお



議会の傍聴は特別な用事がない限り足を運び、町の課題をとらえた質問などを聞かせてもらっています。

私はいわき市議会はじめ郡内の町村議会も傍聴させていただいていますが、大熊町は傍聴者が少ないように思います。また一般質問も他の議会に比べ静かなように感じます。

最近、町に関心が薄れてきた人が見受けられるようになってきたので知人らを傍聴に誘っています。傍聴者が多ければ議員も張り切るでしょうから。

町政に関心を持っていたただけ、各種団体に傍聴に来ていただけるよう議会からも声をかけてみてはいかがでしょうか。

藤森 菊美さん（下野上地区）
ふじもり きくみ

議場に入るとピンと張りつめた空気で、緊張感がありますね。初めて見る議員の方も多くなりました。

一般質問はたまにラジオで聞く国会討論と同じような感じがしましたけど、できればもっと分かりやすく簡潔にしてもうえればと思いました。同じような質問を何回もするのはどうかなと。

議員の皆さんには各地域で行われているコミュニティの集まりに積極的に参加して、町民の声を聞いて欲しいですね。

震災後、資格を取ってデイサービスで働いた経験があります。歳を重ねてきて、町にもこのような施設があれば戻れると思う今日この頃です。



提出された議案審議

令和7年第2回定例会は、6月11日（水）から2日間で行いました。提出された計13件の議案について慎重に審議しました。その中からポイントとなる議案を解説します。

可決 物価高騰対応およびゼロカーボン補助金など 2億9,766万円を追加



主な補正内容と質疑

●物価高騰対応緊急生活支援業務

1,574万円

エネルギーや食品等の物価高騰の負担が大きい低所得世帯への負担軽減を図るものです。

Q 対象となる世帯は何世帯位になるのか。また具体的にはどのような支援を行うのか。

A 対象世帯は約2400世帯になる。支援内容は米5kgを配布する予定である。

Q 昨今の米価格高騰の影響は受けないのか。

A 現在の情勢は理解しているが、支援が滞ることなく対応していく。

●価格高騰緊急支援給付金 6,443万円

定額減税しきれないと見込まれる方への給付に当初予定額から不足のある方に対してその差額を給付するものです。

●ゼロカーボン推進補助金

1億1,654万円

下野上地区にて新たにZEH-M全14戸建設計画があり総事業費の1/2を補助するものです。

※ZEH-M(ゼッチ・マンション)…ゼロエネルギー・マンションの略

●スクールバス購入

2,640万円

現在使用しているスクールバスが経年劣化による故障が頻発していることから、新たに2台購入するものです。



写真提供：三菱ふそうトラック・バス株式会社

人事



教育長に佐藤由弘氏が就任

大熊町教育委員会教育長の人事案件が全会一致で可決しました。

【出身】 相馬市

【任期】 令和7年7月1日～令和8年3月31日

総務文教常任委員会

5月16日委員会を開催し、熊町小学校および幼稚園の現地調査を行いました。
中間貯蔵施設区域内の遺構等については、保存や活用の方法について検討されることになって
います。

委員会では、熊町小学校と熊町幼稚園の現地調査を行い施設の
状況を確認しました。

熊町小学校は、震災および経年劣化により外壁等の損傷があり、
利用にあたっては大規模な修繕の必要があると感じました。

今後施設の安全性、修繕および維持に係る費用と文化財的価値、
または震災遺構として何を伝えていくのかなど多角的な視点
から検討していく必要があると感じました。



あのときのまま…

一般質問

定例会2日目は2名の議員が復興への課題をとら
えて質問しました。

なお質問動画は2次元コード（QRコード）から
ご覧になれます。



一般質問動画
視聴はこちら

県立
大野病院

問 医療従事者のための住宅を確保すべき

答 県と連携しながら取り組んでいく



こわた
木幡ますみ 議員

木幡 医療従事者の方々が安心して病院で働けるよう早期に住宅確保を検討するよう
福島県に対して積極的に申し入れ、町としても全力でサポートしていくべきであ
ると考える。

町長 病院のハード整備はもとより医療従事者の確保と安心して働けるための住宅
環境の整備を県と連携しながら取り組んでいく。

大熊ⅠC

問 逆走対策で安心安全な道の駅を

答 関係機関と協議し整備していく

町長 大熊ⅠCについて応急
対応としてネクスコ東日本と
協議の上、5月初旬から注意
喚起のラバーコーンと矢印板
の設置を行っている。
町が計画している道の駅だ
が、今後ネクスコ東日本と調
整し、関係機関の協力をいた
だきながら安全に利用できる
道の駅として整備していく。

渡辺 常磐自動車道大熊ⅠC
と隣接する西側に道の駅が整
備される。そこで懸念される
のは、最近社会問題になって
いる高速道での逆走車による
重大事故である。大熊ⅠCは
逆走の危険性がある平面交差
点になっている。
道の駅の来場者が安心安全
に利用できるよう県警、ネク
スコ東日本と平面交差点での
危険を回避する対策に取り組
むべきである。



わたなべ
渡辺
まこと
議員

おお
サウスポーが～
カッコいい!!



初ラウンド
緊張するなあ～



もうちょっと
右かな～



あと1メートル
ちょいね
入れるよ



あっ??
そっちじゃないよ～
真っ直ぐいけえ～



木に当たらないで～
難しいコースだよね～

ふれあいパークゴルフ

議員との交流を目的としたふれあいパークゴルフは5月11日、広野町の二ツ沼総合公園パークゴルフ場で行われました。

初めての開催で初心者から上級者までの町民32人と議員合わせて42人が参加。好天のもとで和やかにプレーを繰り広げました。参加者の熱戦ぶりをお届けします。

ホールインワン
狙おうかしら

初めてだけど
これ楽しいかも

ナイスショット
でもオーバーかな？



スタート前の
ミーティング
皆さんよく聴いてね



よしいいぞー
止まれっ！

少し弱いかな
届けー

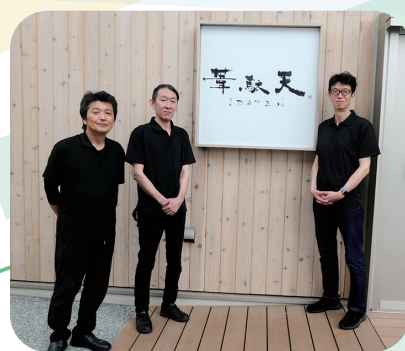
おっ！
いい感じじゃない



テラス」オープン

大野駅西交流エリアに今春、新たに商業施設「クマSUNテラス」がオープンしました。

和洋中揃った飲食店にコンビニ、文房具など魅力あふれる7店が出店。ぜひ足を運んでみてください。



● 韋駄天 IDATEN おおくま店

地産地消や食品ロス削減を目指した飲食事業を通し、楽しい食事の場を提供します。

また店舗名は、厨房を守る護法神として祀られる「韋駄天様」とパスカルの「人間は考える葦である」を組み合わせ「葦駄天」としました。



● WALNUT (ウォルナット)

WALNUTは、A4ランク山形牛サーロインをはじめとする上質なお肉をカジュアルな雰囲気でご堪能いただけるセルフスタイルの店舗です。

A4山形牛は、上質で濃厚な味わい、希少部位の国産和牛カイノミはとろけるような柔らかさに思わず笑みがこぼれる逸品です。

お支払いは、クレジットカード、PayPay、交通系ICでのみ対応しています（現金不可）。

● panier (パニエ)

大熊町に来る前はホテルなどでパティシエをしていました。2年ほど前に移住し、linkの大熊や学び舎ゆめの森にてお菓子教室を開催したり町内のイベントにて出店するなどしていました。その経験を生かし、大熊町や浜通りの魅力を伝えるお店にしていきたいです。



● ふたば文具

震災前より大野駅西側で商売をしていました。今回、ふるさとに帰って来てお店を再開できたことはうれしく思います。

地元から愛される文具店を目指しています。

マイボトルを持参された方には冷水、お湯のサービスをしています。



商業施設「クマSUN



●ファミリーマート クマSUNテラス店

震災復興に繋がたい思いや住民の声にも応えるべく、双葉町に次いで大熊町にも出店を決めました。

地元の方々と気さくに話ができる店を目指します。また雇用の場も提供していきたいです。

この先、スーパーや病院も整備されていくと聞きました。一緒に駅西を盛り上げていきたいので、気軽に立ち寄っていただけるコンビニにしていきたいです。



●十川食堂

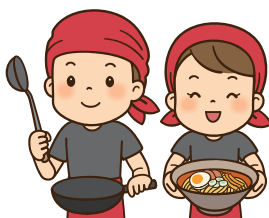
以前は北海道のホテルやJヴィレッジレストランで飲食店スタッフとして勤務していました。

その後、linkる大熊のチャレンジショップを始め、来店してくれたお客様から「おいしい」「また来ます」などの声をいただいて自信がついた

ので、自分の夢を叶えるべく商業施設に出店しました。

皆さんが食べに来て笑顔になってくれるのがとても嬉しいです。

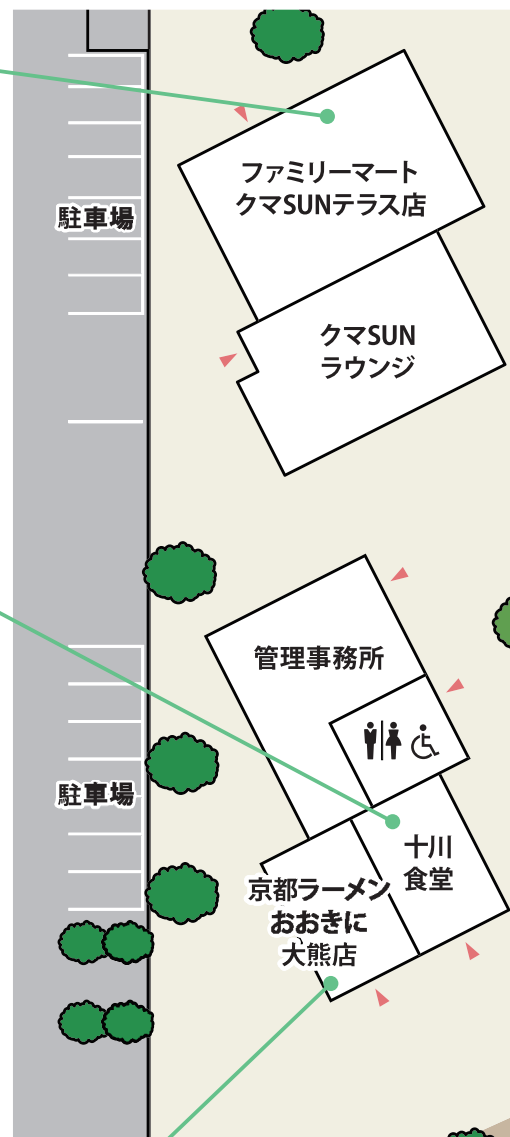
今後も皆さんに笑顔になってもらえるよう腕を振るってまいります。



●京都ラーメン おおきに大熊店

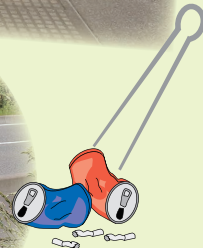
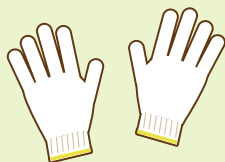
東日本大震災で避難した京都で出会った一杯のラーメンに惚れ込み、是非このラーメンを地元福島に持って帰りたいとの思いから4年の修行を経て、いわき市駅前にお店を出しました。

双葉郡出身の私にとって、大熊町に出店できたことは本当に嬉しく、たくさんの方々に愛されるよう頑張っていきます。



ピカピカ美化活動

私たち議会議員は、ボランティア活動の一環として5月21日役場周辺の美化活動を行いました。



傍聴してみませんか

9月定例会は10日からの予定です

編集後記

今回の議会だよりはいかがでしたでしょうか？

手に取ってもらって、読んでもらうために、今回特集記事として移住されてきた方、議会を傍聴された方、商業施設に出入りされた方などに広報委員全員で手分けして取材しました。

皆様からの議会に対する要望町に対する意見などたくさんいただきました。出された要望等については、議会活動に反映させていきたいと思っています。

今後も関心を持って読んでいただける議会だよりを目指していきますので、皆様のご意見をお聞かせください。

武内 正則

広報公聴常任委員会

委員長 渡辺 健二
副委員長 島原 一郎
委員 渡部 弘彦
委員 石井 和弘
委員 武内 正則
委員 阿部 光國
委員 廣嶋 公治
委員 仲野 剛

発行責任者

仲野 剛